

和田ひでとし通信

区政レポート

第三十三号

令和六年度を迎え、和田ひでとしは世田谷区議会議員として十四年目となりました。
これまでの四期十三年間は東日本大震災をはじめ、今年元日の能登半島地震など、各地域での自然災害や、東京二〇二〇大会、そしてコロナといろいろな出来事の中での議員活動でした。そして地元の為においての活動も続けながら、常に機軸を区の為、地元の為においての活動を心がけております。
今期も二年目となり、議会は新しい庁舎の東棟へと移転しました。早く新しい環境に慣れて、山積しております様々な区政課題、地元課題にも、引き続き全力で取り組んでまいります。

地元、世田谷区に生まれ育った私にとって、
地域活動はこれまでもこれからも私の議員活動の原点です。
学校PTA・おやじの会・青少年地区委員会等で培った経験、そして
現在では、町会・商店会・地区防災会議・避難所運営委員会・保護司・
古布回収・同窓会・少年野球・・・　様々な皆さんと関わりながら
これからも地元のために軽トラと共に働いてまいります。



和田ひでとしの地域活動



地元盆踊り大会の子どもたちの太鼓練習のお手伝い。
約20年近く続いています。始めたころの小学生が
現在指導者として手伝ってくれています。



奥沢中学校避難所運営委員として毎年１月、中学校の防災授業の
お手伝いでマンホールトイレの設置訓練を続けています。

毎週木曜日の駅頭あいさつ

毎週木曜日続けております、奥沢駅朝の駅頭あいさつ、おかげさまで多くの皆さまと顔なじみになりました。真夏と冬の寒さはきついですが、時々話しかけられたりして励ましをいただいたり、時には厳しいご指摘もあります。
すべてを感謝の気持ちで受け止め、私の活動に生かしてまいります。



各地区での区政報告会



毎年秋に奥沢・東玉川・九品仏の３会場で区政報告会を行っています。区政全般に関するさまざまな課題、地元ならではの課題を皆様にご報告し、ご意見をいただいております。
特に奥沢区民センターや図書館の仮移転、バス路線の運行本数拡充については重要課題として皆さまからの声を区へ届け続けています。

令和６年 第１回定例会予算特別委員会質疑より



議会運営委員長という役目柄、定例会本会議での質問ができません。そのため、私の定例会での質問は、予算特別委員会と決算特別委員会の年２回となります。
今回は３月６日から21日まで行われた、予算特別委員会での質疑より企画総務領域と都市整備領域を担当しましたので、主な質疑を抜粋してご報告します。

「学校プールの今後の在り方」その３

区立学校のプール施設整備等水泳授業の在り方について、ある程度具体的な方針が示されてまいりました。今後区立の小中学校の改築が進んでいく中、奥沢中学校の改築基本構想では区で初めての簡易温水プールが計画されています。
今後の学校改築と共に、プールの在り方が変わっていくことになります。



QUESTION

区の方針としてこれからは各学校にプールを設けるのではなく、条件が整えば共同利用へという考え方に移行していくということです。
現在区内に７つのエリアが示されたところではありますが、屋内簡易温水プールについて、複数校での共同利用をするにあたっての費用対効果について伺います。

ANSWER

近年の猛暑等の影響で水泳授業の計画的な実施に支障が生じている中、児童生徒の教育機会の確保、経費の抑制、プールを整備しないことによる敷地の有効活用、区民利用等の観点から、屋内への整備や共同利用の可能性、その費用対効果について、教育委員会と連携し、検討を進めてきたところです。

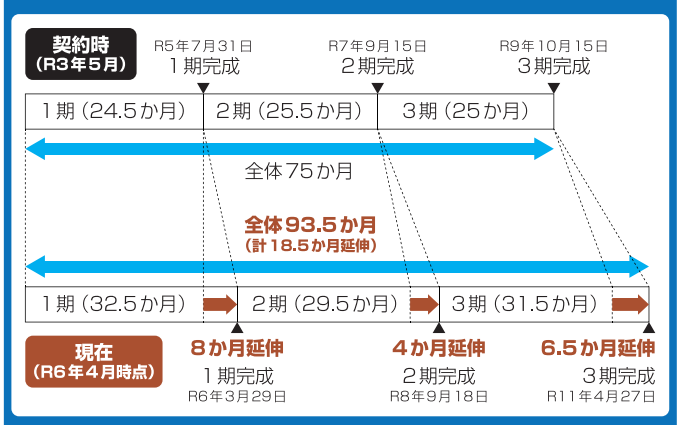
裏面へつづく

政策企画課長

本庁舎等整備工期が延伸しています



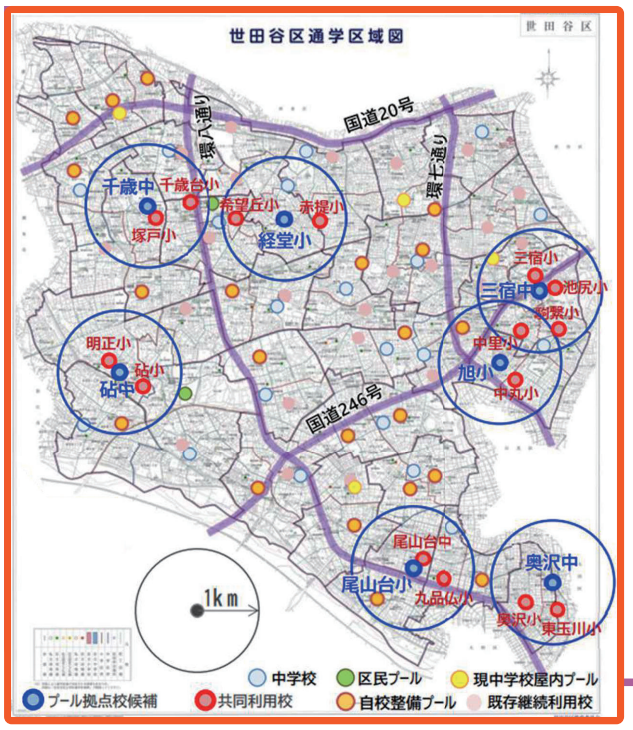
１期工事は当初計画より約８か月遅れて、３月末にようやく竣工しました。そして２期工事は約12か月遅れの令和８年９月、さらに３期工事は18.5か月延伸となり、令和11年４月となりました。
92万都市の拠点として、これ以上の遅延や変更は許されません。区民会館を一部残すために区役所機能を維持しながら、３期に渡ってローリングしていく難工事ですが、決めた以上しっかりと進めていかなければなりません。



── 契約時点との各工期の比較について ──

ご意見・ご感想はこちらまで　〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 1-40-2　TEL 03-3720-3542　FAX 03-3720-6928

表面からのつづき



簡易温水プールについては、プール水を補助的に加温することで、夏季以外にも一定程度利用期間を拡大することができます。費用面においては、これまで各校にある屋外プールに比べ、整備費が約2.2倍ですが、室内温水プールに比べ約３分の１であり、3から4校で共同利用することにより、屋外プールと比較しても経費の抑制が見込めます。

共同利用することによって、今まで校庭などにあったプールが無くなることで、その分広い敷地が確保でき、子どもたちの運動面はもちろん、少年野球やサッカーの利用、また地域行事の利用など、公共施設としての利用価値が上がってくると思います。



QUESTION

そこで、この簡易温水プールについて条件が整えばではありますが、地域住民の夜間や休日の利用なども考えられるのではないでしょうか。この点について区の見解を伺います。

ANSWER

区としましては、一部の中学校において夏季休業中に屋外プールを開放している状況なども鑑み、全区的な視点から、区民の運動機会の充実や費用面での影響等を勘案し、簡易温水プールの休日、夜間の利用についても教育委員会とともに、今後検討を進めてまいります。

政策企画課長



区民の運動の機会を保つことで健康維持へもつながり、特に高齢者などにも利用いただいて、健康長寿社会へとつながるきっかけになると思います。是非前向きに検討を進めるよう要望してまいります。

「避難所マンホールトイレ」



この度の能登半島地震でも大変大きな被害が発生しており、改めて自然災害の恐ろしさを痛感しております。特に避難所生活でまず気になるのは、トイレの問題です。
これから区内の学校改築が進んでいく中で、配備されたマンホールトイレが本当に機能するのか検証が必要です。



QUESTION

果たしてこのマンホールトイレがいざという時にどれぐらい使用できるのか、つまり、利用価値が本当にあるのか改めて考えてみる必要があると思いますが、区はどのように考えているのか伺います。



雨が降れば校庭はぬかるみ・・・・



ANSWER

避難所によっては、マンホールトイレが校庭の隅にあって、避難生活の場となる体育館から離れているため、雨やぬかるみ、寒さ、など様々な状況下で、実際に使用するには不便であろうと想像される施設も見受けられます。
今後、学校の建替えが予定される場合には、教育委員会と協議し、マンホールトイレの設置位置を、例えば、体育館からの動線を最短とする、あるいは、建物の庇の下に配置するなど、できる限り工夫して避難者が少しでも使用しやすい設備となるよう努めてまいります。

危機管理部副参事



これからも避難所運営を見直しつつ、「在宅避難」をさらに周知啓発していかなければなりません。
私たちは避難所の実態がいかに過酷であるかをまず再認識する必要があります。



QUESTION

避難所がいかに過酷な環境になるかということ、報道では伝えられていますが、もっと区民に周知をしていかなければなりません。区の見解を伺います。

ANSWER

議員お話の通り、トイレ不足はもとより、生活環境の変化、狭隘な居住スペースでの他人との慣れない共同生活、プライバシー面でのストレスや、感染症の拡大など、能登半島地震でも繰り返し報道されているとおり、避難所での生活環境は災害関連死にもつながる問題であり、避難所生活の実態は未だ区民に十分浸透していないものと認識しております。今後、区民の在宅避難の意識がさらに高まるよう、過酷な避難所生活のリスク等について、総合支所とも連携しながら、広く周知啓発してまいります。

危機管理部副参事



マンホールトイレはほんの一例ではありますが、これからも機会あるごとに避難所の課題と在宅避難の周知啓発については、皆さまとともに取り組んでまいります。

「大井町線・東横線の踏切解消に向けて」



自由が丘駅周辺地区の街づくりが、昨年から本格的に始まり、駅周辺が大きく変わろうとしております。この動きは、大井町線・東横線の踏切解消を目指していく大きなチャンスでもあり、これまでは目黒区側が主体でしたが、世田谷区もしっかり連携していかなければなりません。ようやく５年度の予算に調査費用が組まれ、昨年10月に東急大井町線・東横線沿線の交通量調査が行われました。



QUESTION

そこで、この調査はどのような目的で行われ、また今後どのように活用されていくのかを伺います。

ANSWER

区では、大井町線・東横線の街づくりや開かずの踏切解消につきまして、両区で情報共有を図りながら沿線全体で検討していくことが必要と考え、目黒区とともに今年度、大井町線・東横線沿線における交通動態を把握するため、世田谷区内で20箇所、目黒区内で13箇所を選定し交通量調査を実施いたしました。来年度はこの調査結果を基に将来交通量を推計し、大井町線・東横線沿線における周辺地域にどういった交通需要が発生するのか予測を行うなど、広域的な道路ネットワークの検討をしてまいりたいと考えております。

道路計画課長

玉川地域の大動脈である大井町線・東横線の踏切解消はこれからの沿線まちづくりに欠かせない課題です。
道路ネットワークの検討とバス路線の拡充についても、併せて考えていかなければなりません。

